

肥と物と居る多し新寺た寺の
為に押附さく疾に多師
何故下作さるる年家二回酒
以来喘息に罹り醫師を
召し給ふと禁より是に居居り是
中至心下りても今以てや無沙の
下上多病にまゝ深に地つて
得漸美り漸に快き方赴
き給ふ也。第候や候中宛
とて多と下所先は下候
ア何ひ了此所奉申上知
此等し百候

十二月廿五日

泊河守下

大隈老忠閣下 信書

市、五十年史、材料一所。
別島、運中、年、る、少、
快、を、取、り、上、に、行、下、し、屋、を
一月、七、八、日、の、頃、に、評、入、

